

2年2組

 ヤギさんとの暮らし
 ～みんなが しあわせに くらせるために～


「はじめてさわるとき、ふんわりしていました」

2年生になって、どんな「暮らし」をつくっていくのかクラスで話し合いが始まりました。2年2組では、「動物を飼いたい」ということで、動物を飼うことについて話し合い活動を行っています。みんなで、「何を飼うか」「動物を飼ってどんなことがしてみたいか」「なぜ動物を飼うのか」等、様々な視点で話し合いをしています。

ある朝、登校してきたAさんに、「おはよう」とあいさつをすると、「先生、動物の本を家から持ってきたよ」と嬉しそうに話す姿がありました。本を持ってきた訳を尋ねると、「この本をみんなに見てもらってさ、どんな動物を飼うか考えてもらったらどうかなと思って」と一生懸命話す姿がありました。本を借りて、本の中を見させてもらおうと、本の中には、いろいろな動物のお話がかかれていました。「この本、面白いね」と伝え、とても嬉しそうに笑顔になります。この本をどうしたいかAさんに尋ねると、「先生、紹介したいから時間つくって」ということでした。そこで話し合いの時間の最初に本を紹介するようにしていいか尋ねると、「うん」と言って、元気よく教室へ向かっていくAさんの後姿を見届けました。そして、その日の話し合いで本を紹介し、クラスの子もたちに順番に本を回して読む時間を設けました。本を読む友だちの傍へ行き、「これはさあ…」とお友だちに説明しているAさんの姿がありました。「この本、面白いね」というお友だちの言葉にとっても嬉しそうな表情を浮かべるAさんの姿がありました。

このことを振り返ると、Aさんはきっと家に帰ってからも「どんな動物を飼おうかな」と考えたり、悩んでいたのだと思います。まず、家に帰ってからもクラスのことを思うAさんの気持ちが素敵だなと感じ、嬉しくなりました。教室という空間にいらなくてもクラスに思いを寄せているAさん。そして、みんなのために「本を用意したらどうか」と考え、実行したAさん。家に帰ってから、たとえ教室にいらなくても、共に在ろうとするAさんの姿があったのだと思います。

「Aくんは、どうしたいの」「Aくん待っているよ」と声をかけ、受け止めようとする仲間の存在。そして、それに応えるかのように「本を持ってきたよ」と行動するAさん。どちらも共に在ろうとしている姿を感じずにはいられませんでした。その後、話し合いを重ね、現在では「山羊と触れ合う体験をしてみたい」「お世話をする体験をしたい」という思いのもと、期間限定で、子山羊をお借りして、学校でお世話をする体験をすることとなりました。子山羊を迎える準備を進めているところです。

5月19日(月)から5月24日(土)までの1週間、山羊さんとの暮らしを体験しました。5月19日(月)出会いの場面。山羊さんを教室へ連れていくと、初めての大勢の子どもたちを前に山羊さんの後ろ足は、ガタガタと震えていました。その姿を目の当たりにした子どもたちは「怖いのかな」「びっくりしているんじゃない」「かわりなんだよ」などと様々に想像していきます。山羊は、興奮したのか敷いていたブルーシートの上で、糞をしてみたり、おしっこをしてみたりと、生き物を飼うという現実と子どもたちはいきなり直面していきます。自然と山羊を撫でる子もいれば、驚きの表情を見せ様子を伺っている子もいました。当然のことながら、子どもたち一人ひとりにそれぞれの出会い方が訪れました。その後、皆で山羊さんとお散歩をすることにしました。子どもたちは、山羊さんにつづきます。私と共に、手綱を引く子、山羊さんをなでる子、山羊さんの傍を歩く子、それぞれの寄り添い方で散歩が始まりました。



5月24日(土)地域公開参観日、1週間の節目となるこの日。山羊さんとの1週間を振り返り、自分たちにとって山羊さんと過ごした1週間が、どのような1週間であったのか振り返ることにしました。振り返りでは作文を通して、自分

自身と向き合うことにしました。以下はクラスで話し合った時「僕は飼わない」と言っていたAさんの作文です。

かわいくてみんなが気に入ってくれてよかったです。ねむるともかわいかったです。とくに、すきな
たべものは、クローバーがすきです。さいごは、おさんぽできたらいいです。あと水をあげてみまし
た。さいしょあったときは、はずかしくてうんちとかおしっこをかしました。大池が、にが手で入れま
せんでした。あと、たかい石からおられませんでした。リードをひっぱるのもやりました。ヤギをは
じめてさわるとき、ふんわりしていました。あと、いっしょに小やに入りました。おもしろかったで
す。あと、ヤギさんのためにプールもつくりました。大へんでした。でも、まだかんせいはしていませ
ん。おなかがすいたときと水をのみたいときは、「メー、メー」となきます。あと、先生にだっこされ
ていたヤギがかわいかったです。

Aさんは、山羊さんと出合った日、うんちやおしっこをしてしまった
山羊さんを真っ先に撫でにきました。山羊さんの姿を見て、「恥ずか
しがっているのだろうか」と思いやり、感じ取ったAさん。Aさんが撫で
始めたことで、他の子も後に続くように撫で始めました。最初の日に
お散歩したときには、一番近くで山羊さんと寄り添って歩いていたAさ
ん。小屋の中に座り、山羊さんをじっと見つめているAさんの姿をよく
見かけました。山羊さんのことをじっと見つめながら「眠っている姿
が、かわいいな」「クローバーが好きなのだな」「お腹がすいたり、の
どが渴いたりするとメー、メーなくぞ」「大池は苦手なのだな」など、山



羊さんのことをたくさん知っていったのでしょう。また、Aさんをはじめ、子どもたちの中には、きっと言葉に表れる前の
言葉が今たくさん育まれていることでしょう。表出された言葉はもちろんですが、言葉に表れていない子どもたちの中
に育まれている言葉も教師として、しっかりと見つめていきたいと感じた1週間でした。山羊さんと触れ合っている子ど
もたちの表情は、どれも素敵で輝いていました。きっと、その瞬間、瞬間で子どもたちの中にまだ表れない言葉として
たくさん育まれていることでしょう。

7月10日(木)話し合う中で、Bさんの「もっとヤギさんのことを知ってから飼いたい」という発言をきっかけに、山羊
さんについて調べ、まとめる時間を設けることにしました。何回か調べる活動を行った後に7月22日(火)改めて
話し合いを行いました。その中でCさんは「どうやって(ヤギさんを)幸せにしたらいいかかわからない」と、
ありのままの思いを語りました。Cさんの投げかけた問いに答えるようにDさんは「ストレスを溜めないよ
うにする」と考えを発表しました。また、Bさんは「小屋を大きくすればいいと思う」、Eさんは「授業で
お散歩とかしたらいいと思う」と具体的な方法を語っていきました。そして、Fさんは「(幸せにするため
に)どうやるか考える時間も必要だと思う」と、山羊さんを幸せにするために考える時間の必要性について
語りました。さらに、Gさんは「ヤギさんにとって幸せな飼い方をしないと…ヤギさんが幸せかどうか確認
したい」と語るのです。子どもたちのこのようなやり取りを改めて振り返ってみると、山羊さんについて
調べる前と後での話し合いの変化を感じました。これらは、何気ないやり取りのようにも感じますが、山羊
さんについて自分たちなりに調べ、知ったことで、「ストレスを溜めない飼い方」「小屋を大きくする」とい
った具体的な飼育方法が語られていると共に、そして、それが「ヤギさんにとって」どうなのかという山羊
さんの立場に目を向け始めているように感じました。これは、調べ学習の前後での変化を感じた大きな要因
だったと思います。「ヤギさんにとって」という新たな視点を得始めたことで、話し合いが再び動き出し始
めました。

これまでに行ってきた調べ学習は、単に知識だけを得るだけのものでなく「ヤギさんにとって」幸せなの
かどうかという新たな視点を得るきっかけの1つになっていたのかもしれませんが。調べ学習の目的や意義
を改めて私自身が問い直すきっかけとなった話し合いとなりました。